

令和元年度 地域でつながる家庭教育応援事業

地域家庭教育推進県北ブロック会議 (第2回)

日 時：令和2年1月27日(月) 14:00~16:00
場 所：杉妻会館会議室「百合」
座 長：福島大学 人間発達文化学類 教授 原野 明子 氏

〈会議の趣旨〉

- ① 今年度の家庭教育応援事業の取組状況を振り返り、成果と課題を検証する。
- ② 家庭教育推進のために必要な視点を明らかにし、次年度ブロック会議のテーマ(案)を協議する。

1 令和元年度地域でつながる家庭教育応援事業の取組状況について

(1) 親子の学び応援講座

今年度のテーマである「親子の自己肯定感の形成」を目指し、県北域内に2つのモデル連合PTAを設置し、各地区の課題に応じた講座を実施することで親の学びや家庭での実践を支援してきた。

〈第1回〉 川俣町PTA連絡協議会

開催日：令和元年8月1日(木)

場 所：川俣町中央公民館

講 師：大屋弘子氏(親業シニアインストラクター)

テーマ：「聞いていますか、子どもの気持ち。語っていますか、親の思い。～『自己肯定感』と『生きる力』を育む～」

〈第2回〉 伊達地区PTA連絡協議会

開催日：令和元年11月9日(土)

場 所：伊達ふるさと会館 MDD ホール

講 師：内田伸子氏(IPU・環太平洋大学教授)

テーマ：「子どもの創造的想像力を育む親の役割～AIに負けない子育てを考える～」



【〇成果 △課題】

- 〇 大屋氏の優しく穏やかな語り口で、ゆったりとした気持ちで心の通い合うコミュニケーションの方法を演習することができた。(川俣町PTA連絡協議会)
- 〇 脳の発達の過程やしつけスタイルによる成長の違いについて、科学的データの裏付けと実際の事例を通じたわかりやすい説明に参加者は皆引き込まれていた。印象に残る短いフレーズで子育てで大事にしたい考え方が提示されたので、それぞれの家庭や学校現場における実効性の高い講演であった。(伊達地区PTA連絡協議会)
- 〇 事務局校との連絡調整を密にとり、ニーズに合わせた講師及び講演内容になるよう連携して進めることができた。
- 〇 域内2地区の連合PTAでそれぞれの課題に応じた講座を実施したことで、自己肯定感の形成に向けて家庭や地域で何が求められるかを、より多くの保護者へ啓発することができた。
- △ アンケート結果を踏まえ、保護者がどのような研修内容を求めているかを把握した上で、講座の内容や講師の選定を行うようにしていく。

(2) 家庭教育支援者地区別研修

長谷川氏の講話を通して、子ども、保護者双方の自己肯定感を高めるための取組を家庭や地域で行っていただけるように、本テーマを設定し、当研修を実践した。

開催日：令和元年 11 月 27 日（水）

場 所：福島県青少年会館

講 師：長谷川美香氏（桜の聖母短期大学 講師）

テーマ：「今、求められる支援とは～親子の自己肯定感を育む支援について～」

【〇成果 △課題】

- 長谷川氏の講演を受けてグループワークによる演習を行ったことで、具体的な場面における支援の仕方を実感しながら研修することが出来た。子どもと親それぞれの自己肯定感を高めるために必要なことを参加者全員で共有することができた。
- 長谷川氏との事前打ち合わせを密にとり、県北地区の家庭教育の課題としている「親と子どもの自己肯定感の育成」に焦点を絞った内容にすることが出来た。
- 講演と演習の時間配分を吟味した。演習の時間を長めに取り、ペアによるアイスブレイクをじっくり行うことで打ち解けた雰囲気による充実した演習が実現した。それぞれの立場を生かしたロールプレイングとなった。
- △ 様々な立場から参加していただいた。家庭教育を多様な視点でとらえていけるよう、情報交換の場を設定できるとよかった。支援者同士のつながりを持ち、様々なケースに柔軟に対応できる支援力の向上をめざしたい。

(3) 家庭教育応援企業推進活動

① 申込み状況

今年度は県北域内で 11 社（累計 183 社）から申し込みがあった。（※2月17日現在）

家庭教育応援企業の認証書を交付し、企業の立場から家庭教育の支援を行っていただいている。

② 第 1 回家庭教育応援企業研修会

実施企業：税理士法人ケーエフエス

株式会社ケーエフエス

株式会社 KFS ライフ設計

開催日：令和元年 12 月 2 日（月）

講 師：山本和宏氏（福島県学校教育指導員）

テーマ：「子どもたちのより良い成長を願って

～自己肯定感を育む親の関わり方～



③ 第 2 回家庭教育応援企業研修会

実施企業：東芝プレシジョン株式会社

開催日：令和 2 年 1 月 22 日（水）

講 師：佐藤 敏夫氏（くろがね小屋管理人）

佐久間敏彦氏（福島市教育委員会生涯学習課 生涯学習指導員）

テーマ：「山に学ぶ～自己肯定感をはぐくむために～」

【〇成果 △課題】…家庭教育応援企業研修会について

- 企業側は本研修会を企業内研修の一環として位置づけていた。連絡調整を密にとり、「家庭教育研修を切り口として風通しのよい職場環境づくりをめざしていきたい」というニーズにも対応することができた。
- △ 事後の懇談では内容と時間配分、形態等について様々な意見交流があり、今後の研修会に向けての参考としていきたい。

2 今年度の取り組みに関する意見交換

- ① 家庭教育応援企業へのアプローチについて
 - 「ふくしま健康経営優良企業」等への認定企業、中小企業同友会、ライオンズクラブ、ロータリークラブ等への訪問を通して案内している。
 - 事業案内を通して、「経営環境の改善」を目指す経営理念と「家庭教育応援企業の主旨」を合致させていく。
- ② 親子の学び応援講座の講師選定について
 - 連合PTAの要望にあった講師選定が実現した。
- ③ 家庭教育応援企業研修会の取り組みについて
 - 企業は、研修会を人材育成、環境設定の一環としてとらえている。
 - 通常の研修会よりも男性の参加が多いという利点がある。
 - 会社のニーズに合わせる事業を展開してほしい。
 - winwinの関係で、企業にとってもメリットがあるように。新聞などのメディアに取り上げてもらえるようにしたい。

3 グループ協議

- ① 家庭教育推進のために必要な視点
 - 【A班】・ 学習意欲、個性、AIに関する事など、学力に関する事
 - ・ メディアやSNSへの対応のあり方
 - ・ 親同士の直接話せるネットワーク・環境づくり
 - ・ 親子のふれあい
 - 【B班】・ 家庭の中での父親の子どもへの関わり方
 - ・ 「おやじの会」などの父親同士の取組のあり方
 - 【C班】・ 父親が学ぶ機会のあり方
 - ・ 企業、PTAなどの組織との連携
 - 【D班】・ 親子、保護者同士で顔を合わせたコミュニケーション
 - ・ 子育てを終えている地域の先輩の活用
- ② 次年度ブロック会議のテーマ（案）について
 - 【A班】・ 「親としてどうあるべきか」
 - 【B班】・ 「子どもの褒め方・個性の伸ばし方」
 - 【C班】・ 「親子のふれあいを深めるために、子どもの成長を見守る」
 - 【D班】・ 「Face to face…親も子ども地域も顔の見える関わり合いを深める」



4 成果と課題 < ○成果、△課題 >

- 今年度の県北地区の課題である「親子の自己肯定感の形成」をテーマに各事業を展開したことに對して検証することができた。親子の学び応援講座、家庭教育応援企業研修会等での実績について、事務局校や講師という形で実際に運営に携わった構成員から具体的な様子を補足していただきながら、参加者全員で振り返ることができた。
- 各構成員はそれぞれの立場で家庭教育に携わっている。グループ協議ではその多様性を生かし、家庭教育で求められる視点について多面的な協議を展開することができた。その中から共通する要素を見だし、次年度のテーマについての提案につなげることができた。
- △ SNSの普及などに伴い、人と人とのコミュニケーションのありようが変化し、人間関係の希薄さが顕著になってきている。親子、親同士、地域全体などにおける、顔の見える（face to faceな）ふれあいや環境づくり、ネットワーク形成などの重要性を家庭と学校、地域全体が一体となって学んでいくことが求められる。

